



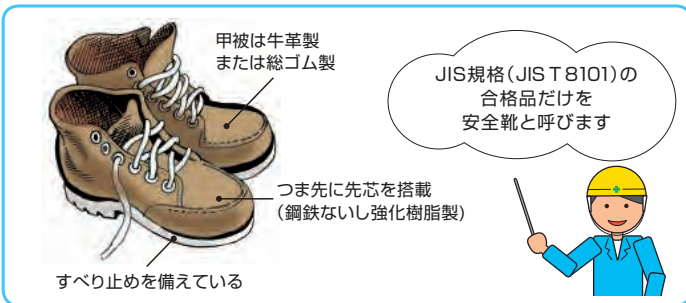
安全靴の話

「身だしなみは足元から」という言葉をよく耳にしますが、作業を安全に行う上でも靴は重要なアイテムです。皆さんももう一度、足元をしっかりとチェックしてみましょう。今回は、安全靴の話です。



皆さんは毎日作業に就くときにきちんと安全靴に履き替えていますか？「今日はちょっと作業するだけだから、普段の靴のままでもいいか」なんて油断は禁物。工場や工事現場などで一番多い事故は、つま先や足の甲のケガだと言われています。落下物や激突・はさまれ事故による足元のケガを予防するために、安全靴の着用は労働安全衛生規則(第558条)によって「事業者は、作業中の労働者に通路等の構造または当該作業の状態に応じて、安全靴その他の適当な履物を定め、当該履物を使用させなければならない」また「前項の労働者は、同項の規定により定められた履物の使用を命じられたときは、当該履物を使用しなければならない」と義務付けられています。

では、安全靴とは、具体的にどんな靴を指すのでしょうか。日本工業規格(JIS)では「つま先を先芯(鋼鉄ないし強化樹脂製)によって保護し、すべり止めを備える靴」と定義しています。さらに、甲被は牛革製または総ゴム製に限られています。



安全靴の形状には、くるぶし下までの短靴タイプから、くるぶし上部ぐらいまでの長さの中編上靴、すね部ぐらいまでの長靴タイプまでいくつかあり、それぞれ特長や適する作業が異なります。また、甲プロテクター、静電気帯電防止、高所作業、溶接作業、踏抜き防止、耐水・耐油、耐熱仕様など、

さまざまな特殊機能を備えたものがあります。使用現場や作業内容に合わせて形状と機能を考慮し、最適な安全靴を選ぶようにしましょう。

さて、皆さんが履いている安全靴はどんな状態でしょうか。「大分くたびれてきてるんだけど、もともと丈夫に出来てる靴だし、買い替えのタイミングがわからなくて…」と迷っている方もいらっしゃるのでは。(独)労働安全衛生総合研究所では安全靴の廃棄基準を下記のように示していますので参考にしてください。

安全靴の廃棄基準

- ① はとめ、ボタンなどが脱落し、修理不能なもの
- ② かかとの腰革がつぶれたものや折れ曲がったもの
- ③ 大きな衝撃を受けたもの
- ④ 甲被が破れたもの
- ⑤ 甲被の磨耗、破れなどにより先芯が露出したもの
- ⑥ 表底が剥がれたもの
- ⑦ 表底の損傷が著しいもの
- ⑧ 表底の模様がなくなる程度に磨り減ったもの

ここで注目していただきたいのは③です。安全靴の場合、一度でも大きな衝撃を受けたものは、外観上に異常が認められない場合でも、変形やひび割れが生じている恐れがあるので必ず廃棄して新しい靴に履き替えるようにしましょう。

歩く、止まる、踏ん張る、支える——。靴は毎日の作業の中でたくさんの役割を果たしています。次回の安全講習会では、安全を足元から見つめ直してみたいはかがでしょうか。

今日のワンポイント

ぴったりサイズ選びのチェックポイントを学んでみよう！

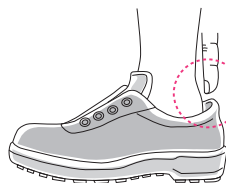
チェック 1

立った状態で靴を履き、全体のフィット感をチェック

圧迫感を感じたり、どこかが当たったりする場合は、サイズやウィズ(足囲)を1サイズ上げて再度チェックしましょう。

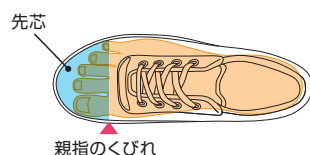
チェック 2

靴ひもを締めない状態で足を前一杯に移動させ、かかとに人差し指が軽く入るかチェック



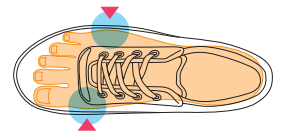
チェック 3

靴ひもを締めて、親指のくびれた部分に先芯の後端部が来るかチェック



チェック 4

足の一番広い部分と靴の一番広い部分が合っているかチェック



チェック 5

最後に、歩いてみて
▲部分に強い圧迫感がないかチェック



足にぴったり合った安全靴を選ぶことが、疲労の軽減や事故の予防につながります。

